




# 2011年3月期 決算説明会

2011年6月2日

 空港施設株式会社

AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

証券コード：8864

[www.afc-group.jp](http://www.afc-group.jp)

1. 2011年3月期決算概況	頁
連結損益計算書	1
連結貸借対照表	2
連結キャッシュ・フローの状況	3
2012年3月期の見通し	4
売上高と配当推移	5
設備投資額と減価償却費	6
2. 東京国際（羽田）空港を中心とする今後の事業の展望	頁
最近の事業展開（東京国際空港）	7
最近の事業展開（その他）	8
今後の事業の方向性	9

# 1. 2011年3月期 決算概況



## 連結損益計算書

単位：百万円

	10年3月期	11年3月期	増減額	増減率
売上高	23,609	22,515	1,093	4.6%
不動産賃貸	16,634	15,068	1,566	9.4%
熱供給	4,079	4,212	133	3.3%
給排水その他	2,896	3,235	339	11.7%
営業利益	3,814	2,486	1,328	34.8%
不動産賃貸	2,922	1,627	1,296	44.3%
熱供給	665	597	69	10.3%
給排水その他	226	263	36	16.1%
経常利益	3,542	2,396	1,145	32.4%
特別損益	2,632	1,081	3,713	—
当期純利益	299	2,045	1,745	582.9%

【不動産賃貸事業】  
売上高は、10年12月の日本橋ビル（2棟）取得により増加したが、大手航空会社の大口賃貸施設の一部が解約されたこと等により減少。  
営業利益は、売上高の減少に加え、地代の値上げ等により減少。

【熱供給事業】  
売上高は、10年10月の羽田空港第2旅客ターミナル増築に伴う空調利用増、夏期の猛暑等により増加。  
一方、一丁目地区の施設解約に伴って収入減があり利益は減少。

【給排水その他事業】  
売上高は、10年10月の羽田空港国際線ターミナル供用開始に伴い増加。

【特別損益】  
六本木ビル売却後の利益を日本橋ビルで圧縮記帳し、結果、特別利益を計上。  
なお、10年3月期は、関空格納庫の減損損失を認識し、特別損失を計上。

# 1. 2011年3月期 決算概況



## 連結貸借対照表

単位：百万円

	科目	10年3月期末	11年3月期末	増減額	増減率
資産	流動資産	7,023	7,919	896	12.8%
	固定資産	63,989	65,163	1,174	1.8%
	有形固定資産	58,616	59,852	1,236	2.1%
	無形固定資産	44	150	106	240.9%
	投資その他の資産	5,328	5,161	168	3.1%
	資産合計	71,012	73,083	2,071	2.9%
負債	流動負債	11,105	13,021	1,916	17.3%
	固定負債	15,010	13,902	1,108	7.4%
	負債合計	26,115	26,923	808	3.1%
純資産	株主資本	42,871	44,244	1,373	3.2%
	その他包括利益累計額	613	450	163	26.5%
	少数株主持分	1,413	1,466	53	3.7%
	純資産合計	44,897	46,160	1,263	2.8%
	負債・純資産合計	71,012	73,083	2,071	2.9%

【流動資産】  
スカイマーク用乗員訓練シミュレーター設置工事によりリース投資資産が増加。  
羽田空港の地代確定が11年3月となったことに伴い売掛金が増加。

【有形固定資産】  
日本橋ビル（2棟）の土地・建物、神戸空港格納庫の土地取得等により増加。

【流動負債】  
国に対する地代等の支払が4月となり、未払費用が増加。

【自己資本比率】  
10年3月期：61.2%  
11年3月期：61.2%



## 連結キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

科 目	10年3月期	11年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,443	7,659	216
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,594	4,395	801
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,191	3,975	216
現金及び現金同等物の増減額( 減少額)	342	711	369
現金及び現金同等物の期首残高	4,929	4,587	342
現金及び現金同等物の期末残高	4,587	3,876	711

- 現金及び現金同等物の残高は、前年度末と比較して711百万円の減少（15.5%減）となった。  
 投資活動によるキャッシュ・フローは、六本木ビル売却による収入があったが、代替資産として日本橋ビル購入による支出があったこと等により支出が増加した。  
 財務活動によるキャッシュ・フローは、大口解約による敷金の返済があったが、日本橋ビル取得により、長期借入金及び敷金の収入が増加した。

# 1. 2011年3月期 決算概況



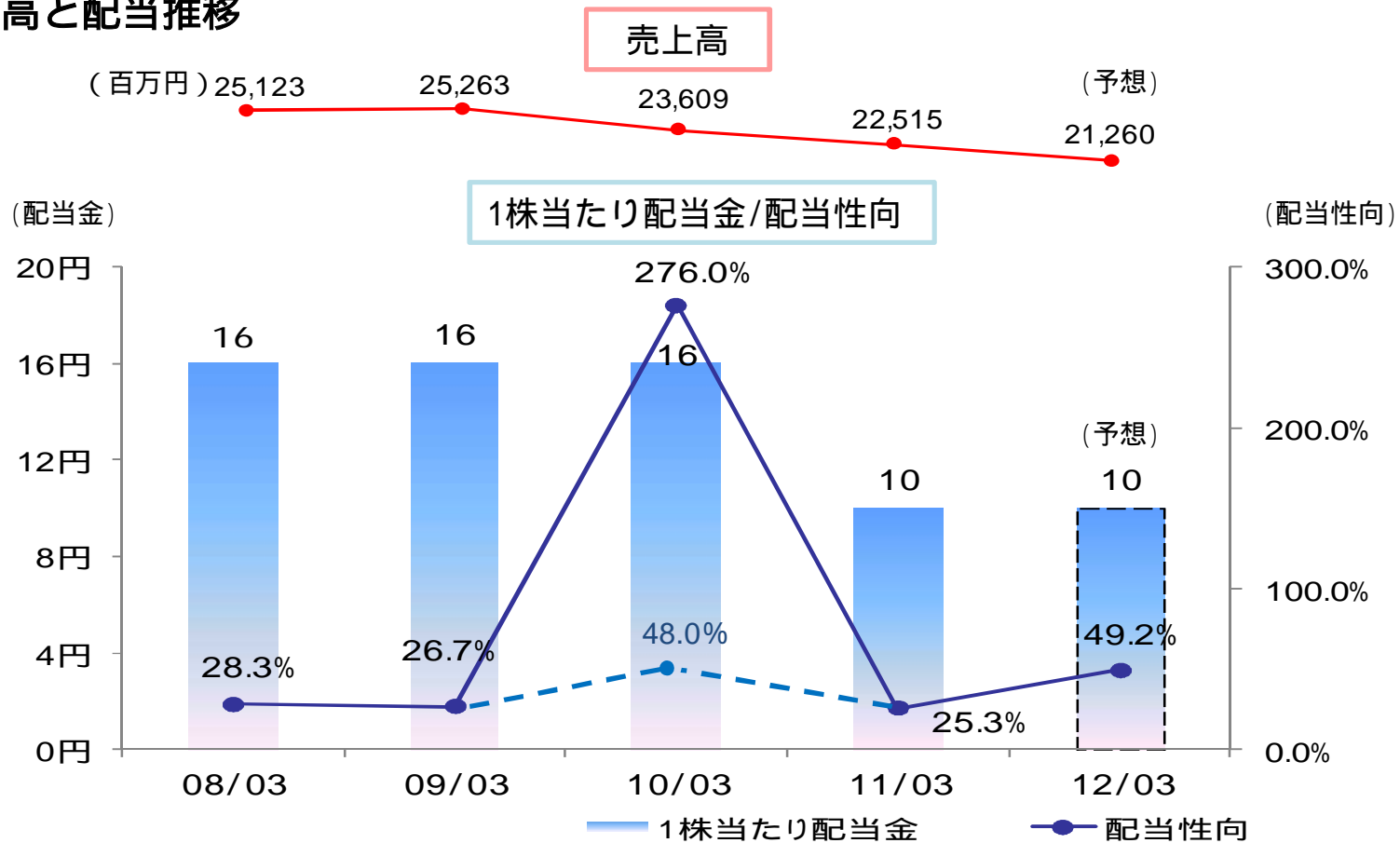
## 2012年3月期の見通し

単位：百万円

	11年3月期 (実績)	12年3月期 (予想)	増減額	増減率	
売上高	22,515	21,260	1,255	5.6%	
不動産賃貸	15,068	13,590	1,478	9.8%	【不動産賃貸事業】 日本橋ビル(2棟)と大田区の「東急ステイ蒲田」の通年稼働による売上増等があるものの、昨年度下期に解約となった大手航空会社の大口解約の影響が通年化し、減収減益となる予想。
熱供給	4,212	4,161	51	1.2%	【熱供給事業】 売上高は、10年10月の羽田空港第2旅客ターミナルビル増築に伴う空調利用増等による増加があるものの、暫定ターミナル、一丁目地区施設の解約等に伴い減少する見込み。 営業利益は、一部設備の償却負担がなくなるため、増加する見込み。
給排水その他	3,235	3,509	274	8.5%	
営業利益	2,486	2,370	116	4.7%	
不動産賃貸	1,627	1,240	387	23.8%	
熱供給	597	856	259	43.4%	【給排水その他事業】 羽田空港国際線ターミナル供用開始に伴い、共用通信及び給排水運営の売上げが通年化し、増加する見込み。
給排水その他	263	274	11	4.2%	
経常利益	2,396	2,290	106	4.4%	
特別損益	1,081	389	1,470	136.0%	【特別損益】 THC(子会社)の資産除去債務を認識し、特別損失を計上。 なお、11年3月期は、六本木ビル売却後の利益を日本橋ビルで圧縮記帳し、結果、特別利益を計上。
当期純利益	2,045	1,050	995	48.7%	



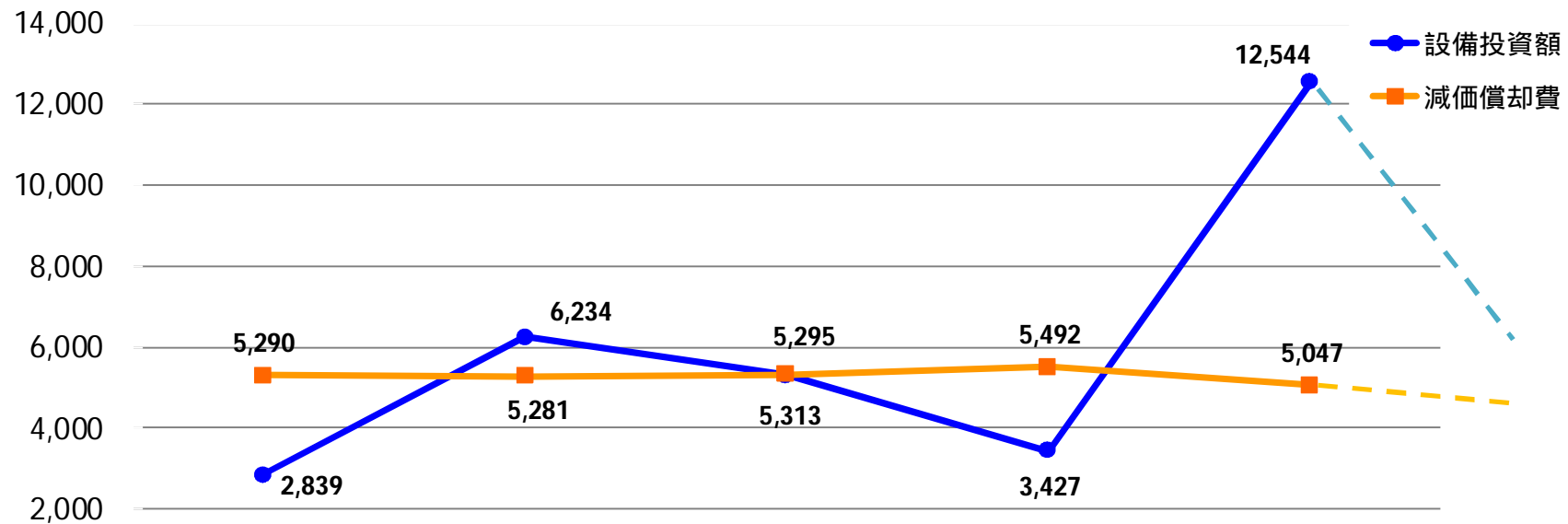
## 売上高と配当推移



- 配当方針については、新たな事業機会や投資機会に備えるための内部留保、今後の中長期的業績見通し等を総合的に判断し、安定的、継続的な利益還元に努めております。
- 12年3月期の配当については、10円（うち中間配当5円）を予定しております。
- 10年3月期の点線部分の配当性向は、関空格納庫の減損認識を除いた場合、48.0%。

## 設備投資額と減価償却費

(百万円)



	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	(百万円)
設備投資	2,839	6,234	5,295	3,427	12,544	
減価償却	5,290	5,281	5,313	5,492	5,047	

07年3月期	第2テクニカルセンター増築(羽田空港)、航空機洗機施設(羽田空港)
08年3月期	エンジンメンテナンスビル南棟(羽田空港)、航空貨物ターミナルE-3棟増築(羽田空港)
10年3月期	コンポーネントメンテナンスビル(羽田空港)
11年3月期	東急ステイ蒲田、日本橋ビル(2棟)、神戸空港格納庫(土地)
12年3月期	神戸空港格納庫(建物)、南蒲田3丁目共同住宅 他

主な設備投資の取得及び竣工期



## 2. 東京国際（羽田）空港を中心とする今後の事業の展望

空港機能の提供を通じて空を支える

AIRPORT FACILITIES CO., LTD.



### 最近の事業展開（東京国際空港）

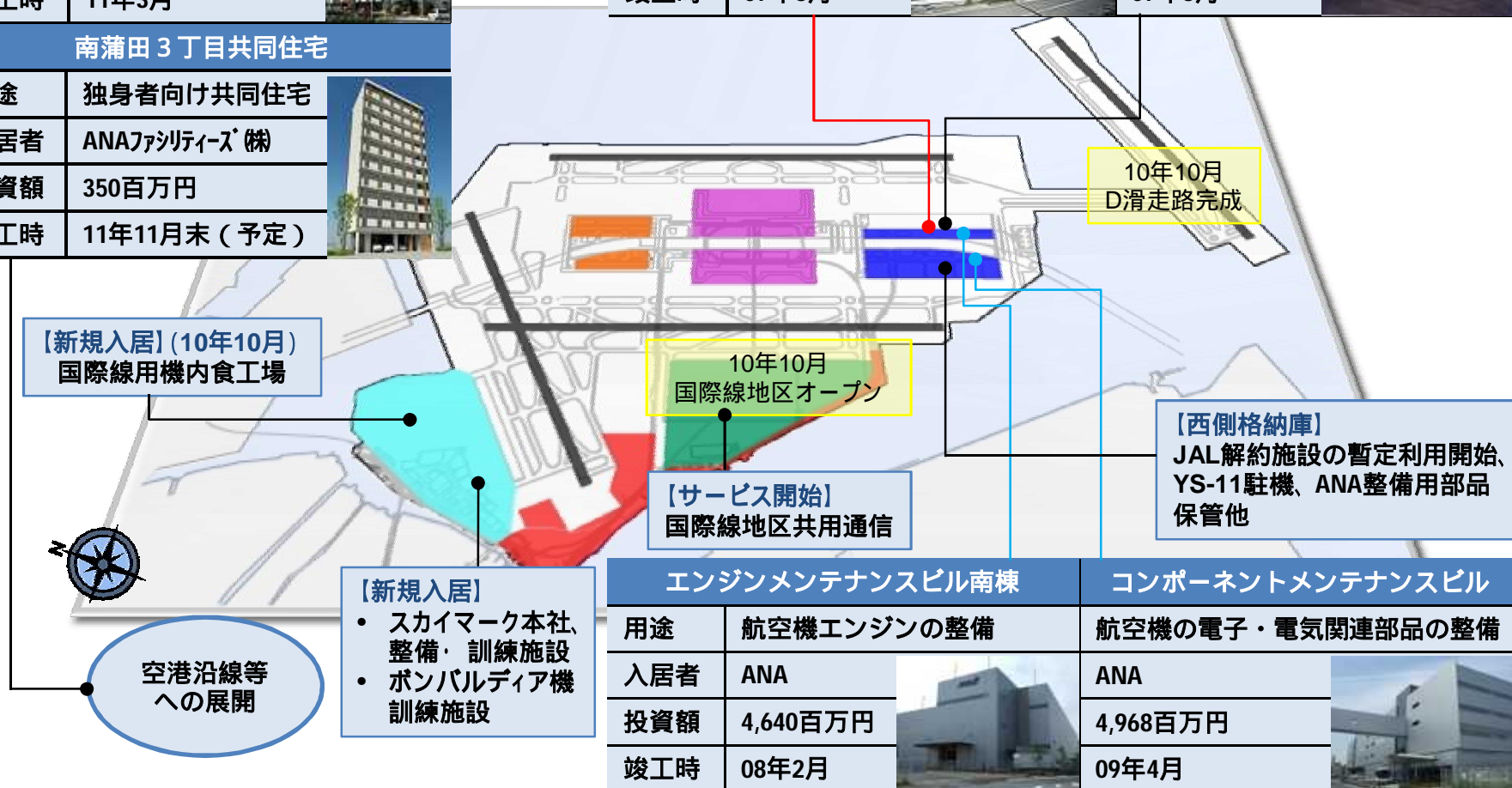
東急ステイ蒲田	
用途	ホテル
入居者	東急リケーション㈱
投資額	930百万円
竣工時	11年3月

南蒲田3丁目共同住宅	
用途	独身者向け共同住宅
入居者	ANAファシリティーズ(株)
投資額	350百万円
竣工時	11年11月末(予定)



第2テクニカルセンター(増築)		航空機洗機施設	
用途	乗員訓練施設	航空機洗浄施設	
入居者	JAL	JAL, ANA, SKY	
投資額	1,096百万円	417百万円	
竣工時	07年3月	07年3月	



## 2. 東京国際（羽田）空港を中心とする今後の事業の展望

空港機能の提供を通じて空を支える

AIRPORT FACILITIES CO., LTD.



### 最近の事業展開（その他）

#### 【地方空港での事業拡大】

神戸空港格納庫	
用途	ヘリコプター整備、基地機能等
入居者	ユーロコプタージャパンT&E(株) (AIRBUSグループ)
投資額	2,300百万円
竣工時	2011年11月末（予定）
面積	土地：6,850㎡、延床：8,040㎡
備考	伊丹空港より神戸空港へ基地移転



#### 【都心優良資産の取得】

共同ビル（室町1丁目、4丁目）	
用途	オフィスビル
入居率	(1丁目) 92% (4丁目) 100%
投資額	9,870百万円
竣工時	(1丁目) 1994年 4月 (4丁目) 1984年11月
面積	(1丁目) 延床：5,251㎡ (4丁目) 延床：5,466㎡
備考	両ビル共に地上9階、地下1階



©2011google

## 2. 東京国際（羽田）空港を中心とする今後の事業の展望



### 今後の事業の方向性：

厳しい事業環境から速やかに抜け出し、航空界の変化を積極的に受け止め、着実に新しい歩みを進めます。

#### 航空会社の厳しい経営状況の影響からの脱却

##### 解約既存施設の再活用 ～速やかな収益性の回復～

- 新規航空会社 / 航空関連企業 / LCC
- ✓ スカイマーク客室乗務員訓練施設、機内食工場等の誘致等
- 乗員訓練施設等の誘致
- ✓ スカイマーク、ボンバルディア機乗員訓練施設の増設等
- その他の再活用
- ✓ 西側格納庫の暫定利用開始及び本格再活用への取り組み

##### 航空会社からの物件の取得

- 整備施設等資産の取得・賃貸への取り組み

#### 空港外施設・資産への取り組み

##### 空港沿線等での更なる展開

- 空港勤務者等用居住施設の整備
  - ✓ 南蒲田3丁目共同住宅（11.11末竣工予定）に続く案件の発掘
  - 空港利用客向けホテルの整備
  - ✓ 東急ステイ蒲田11.4.18営業開始
- 今後については利用動向をみながら、更なる事業の拡大を検討

##### 空港外航空物流施設の整備

- 首都圏エリア等での物流施設の検討

##### 都心優良資産の取得継続

- 日本橋ビル（2棟）（10.12）に続く物件取得継続

#### 航空界の変化への取り組み

##### 地方空港での事業拡大

- 神戸空港格納庫（11.11末竣工予定）に続く案件の発掘

##### 運航支援施設/航空機整備等

- 航空会社に共通して必要となる施設のニーズの発掘

##### 航空貨物

- 国内貨物の今後の需要動向、羽田空港の際内乗り継ぎ貨物の動向を踏まえ、今後の国内貨物地区のあり方等を検討

##### 空港でのビジネス機能の新展開

- 「羽田空港跡地まちづくり推進計画」における国の宿泊機能等整備構想への対応

##### 国の政策変化をフォロー

- 関空・伊丹統合法案の成立と一体経営に向けた今後の動きをフォロー
- 首都圏空港や地方空港のあり方に関する議論を注視

## 「私たちの使命」

空港を拠点とする活力ある民間企業として、  
空港に必要な施設と機能を創造し提供する役割を担い、  
航空の発展に貢献します。

### 空港施設株式会社

AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

[www.afc-group.jp](http://www.afc-group.jp)

東京都大田区羽田空港1丁目6番5号  
第五総合ビル

TEL 03(3747)0251(広報室)

### ご注意

- 本資料は、投資勧誘の目的のための資料ではありません。
- 将来に関する部分については、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、事業環境の変化などによって異なる結果になる可能性があります。
- 投資等に関する重要な決定は、ご利用者のご判断でお願い申し上げます。